

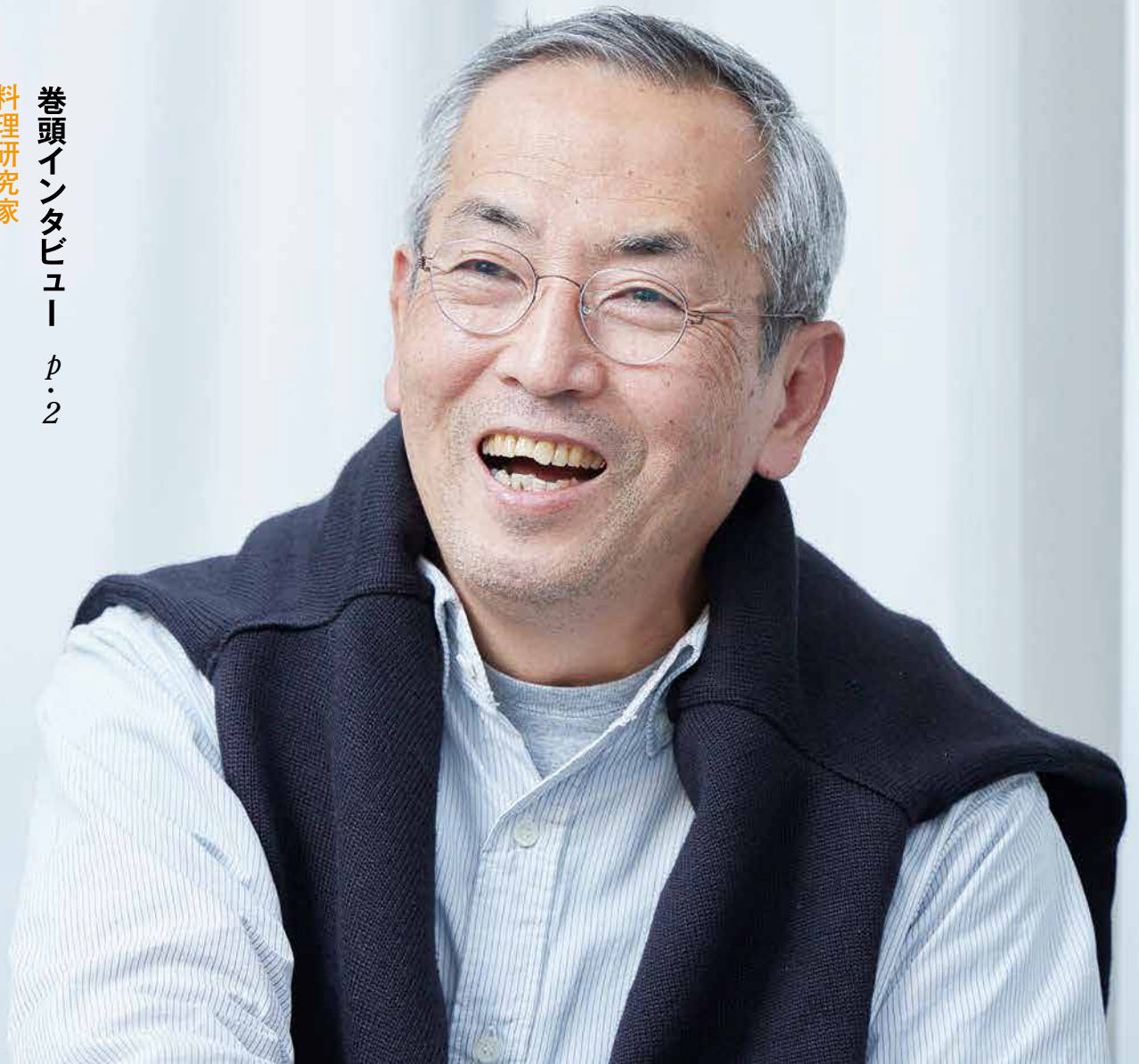
エデュコ
Educo

学びのチカラで 人と社会を 未来へつなぐ

No.57
2022年

土井 善晴さん

料理研究家
巻頭インタビュー p.2



知っておきたい教育 NOW p.4

- ① ICTの感覚と見方・考え方が働く子どもたちの育成を旨として
- ② 学びを止めない遠隔・オンライン教育の力
- ③ 中学校における1人1台端末の積極的な活用を旨とした取組

きょういく見聞録 p.8

地域とともにある学校づくりの推進

地球となかよしトピックス p.10

～公園がつなげる若者たちと地域の未来～
名古屋市南区での活動

Information 北から南から p.12

第19回 地球となかよしメッセージ入賞作品発表 p.14

地球となかよしゼミナール p.18

子どもと美術館【連載第1回】
—半世紀前アメリカの美術館で見た衝撃—

Front Runner p.19

【連載第2回】
学校文法を改める

ほっとな出会い p.20

震災伝承推進官 佐野 智樹さん

ひと椀の味噌汁に秘められた 持続可能な社会のヒント

料理研究家 | 土井 善晴さん

「自分は何もわかっていない」ことをわかってきた

生まれたときから、父がとても有名な料理研究家でしたから、学校で調理実習などがあると「土井にやらせろ」と級友たちにはやしたてられましたね。しかし、幼い頃から父の仕事を見て育った私は、料理は簡単ではないということを知っていました。だから、「わかっていないことはできない」と絶対に手を出しませんでした。将来、自分の大切な仕事になるであろうことを、小学生の頃からなんとなく感じていたのかもしれない。

大阪の言葉でいうなら、ええところのボンボン。自分が「あかんたれ」であるという自覚はもっていました。焦燥感に駆られて、大学に入つてすぐスイスに渡ります。午前中は語学学校で学び、午後は有名ホテルのレストランの厨房で働く生活を一年続けました。いったん帰国して、大学在学中から神戸のレストランで仕事をしながら卒業し、機会を得てフランス・リヨンで一年あまり、料理修業をしました。

帰国してのち、あるとき父に「この漬物を盛りなさい」と命じられたのですが、何を手立てに盛ればよいかという考えを全然もたなかったで、盛れなかったんですよ。自分は何にもわかってないと痛感しました。翌日からすぐ和食の料理屋巡りを開始し、修行させてくれる店を見つけて働き始めました。

感性を磨くために模索する日々

フランス料理でも、美術館に通つて美しいものを見なさいと言われてきたせいか、「料理とは美の問題」と考えていました。

料理屋の仕事は文化的な高価な器も使います。バブルの時代でしたから、茶道のお家元の高麗茶碗なら「五千万円は下らない」と言われても、私には五千万円とい

うのが見えない。わからない。五千万円の器と、五千万円の器と、どこが違うのか。わかるためにはどうすんねんと思つて、とにかく時間さえあれば美術館や道具屋、ギャラリーなどに通いつめて、骨董や書を観たのです。そうしていると、去年見たときとは少し何か、違つて見える。「あ、去年は何も見えなかったな」と気付きます。一年たつたらまた、「あ、去年は何もわからなかったな」と実感するわけです。世の中は目のある人が価値を決めるのですから、「これはええ物や」と言える人にならないといけない。「好きなもの」と「いいもの」は同じではない。それを区別してわかるようにならないといけないのです。いい器がわかることと、いい料理がわかることは同じなのです。

世界で勝負できる料理人を目ざして修行しているさなか、父が体調を崩してしまい、経営していた家庭料理の学校を手伝うことになりました。料理屋のつくる料理と、家庭料理は全く違います。料理人の目から見て：恥ずかしいことですが、家庭料理を下に見ていたのです。結局なにもわかっていなかったのです。しかし、京都の河井寛次郎記念館に何度も通ううちに、「ああ、人間の暮らしの中に、こんなにも美しい世界があるのか」と目を開かされ、次第に気持ちは変わっていききました。人々の日々の暮らしの中に、美意識が確かに存在している。「一生懸命生活するところに美が生まれる」というのが民藝です。河井寛次郎記念館に通ううちに、「家庭料理は



PROFILE

1957年、料理研究家・土井勝氏の次男として大阪市に生まれる。芦屋大学教育学部卒。スイス・フランスでフランス料理を学び、帰国後は大阪「味吉兆」で日本料理を修行。1992年に「おいしいもの研究所」を設立。1988年～「おかずのクッキング」(テレビ朝日)、1987年～「きょうの料理」(NHK)レギュラー講師。2016年に上梓した『一汁一菜でよいという提案』は大ベストセラーになる。十文字学園女子大学招聘教授、甲子園大学客員教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。

伝統的な食文化の底力と重要性

を深く追求するようになりました。

数十年前、イギリスで食のブームが起きた頃のことです。当時ロンドンには最先端のレストランがたくさんできて、さまざまな創作料理が提供されており、ダイアナ妃などセレブがお喜びで通っていました。私もジャパンウィークのイベントでロンドンに招かれたのですが、私を含め、現地に行つたスタッフ全員、食中毒になつてしまいました。後で知つたのですが、その頃イギリスでは食中毒が社会問題化していたのです。結局、もてはやされていたのはただの思いつき料理にすぎず、命を守る料理ではなかった。昔からの食文化として積み上げたものとは異なっていたのです。この経験から、伝統的な食文化の重要性を再認識しました。

人々の舌が肥えて、目新しいものや贅沢な食べ物欲望のままに求めても、限りある自然の資源を奪い合っているわけで、いずれば行き詰まります。人間が地球に借金しながら過度の成長を追いかけてきたせ

いで、すでに世界中で深刻な気候変動や自然災害が起きています。

タイタニック号の中でバンドと歌ったり踊ったりして楽しむ方法はいくらでも思いつくのに、タイタニック号をいかに沈めないかについては、われわれは考えてこなかったんですね。

2016年に上梓した『一汁一菜でよいという提案』の中で提唱したのは、いま一度食の基本に立ち返ろうという考えでした。日常の食事は何品も作る必要はなく、具沢山の味噌汁とご飯と漬物さえあれば充分。おいしいものを作ろうと気負う必要もない。日本の昔ながらの汁飯香、「一汁一菜」の中に、必要なものは全

ハレとケを区別して和食を初期化することによって、持続可能な社会が実現するかもしれないという考えです。

自然中心主義の和食、人間中心主義の西洋料理

和食の観念には、何もしないことを最善とする考え方があります。姿、色、形などは何も変えないで、できたら味付けさえしたくない。アクを抜いて、食べやすく切って、究極のところ、食べられるようにするだけ。それが日本料理なんで

すよね。

和食は「自然」を中心に考えるので、素材を生かします。

一方、西洋の食の背景には「人間の哲学」があります。人間中心主義の西洋料理においては、人間が作ったもの、すなわち味付けを評価します。食材同士を組み合わせて別の味を作ったり、いろいろな香辛料や調味料で味を重ねたり。味付けが重視されるので、和食とは真逆の観念があります。ですから、現代の日本人は西洋の「味をつけること」が料理だと思っているのです。

一汁一菜は、毎日食べても飽きることはない。味噌汁を要として、ご飯はただ火を入れただけ、漬物などは発酵食品でしょう。味噌も漬物も、醸した微生物の働きによるもので、人間が作ったものじゃない。人間業ではないんです。優れた杜氏は「この旨い酒は俺が造った」などと言いますが、ただ自然にある恵みをいただいただけだと、厳しく己を戒めているのです。

口に入れた最初の瞬間からおいしいと感じるような、快樂的な味をもともと日本では評価しません。きんぴらごぼうの滋味深さだつて、ふきのとうのほろ苦い味わいだつて、食べているうちに尻上がりになってくる慎ましいもの。脳が感じる快樂的なおいしさと、体全体が喜ぶような穏やかで静かなおいしさは違います。日本の「おいしい」は五感全体で味わうもので、心地よさを細胞の一つ一つが伝えてくれるのです。

日本料理屋に行ったときなど、音も匂いもない、「ここはほんまに料理屋か」と思うような清浄な空間の中、畳の上をすつと擦るような、歩く音がかすかに聞こえる。静寂の中に、コトつと器を置いた音が一瞬、際立つ。何も匂いのないところに、一瞬、繊細な香りが立ち現れたかと思つた

ら、余韻も残さず消えていく。口の中につまでも残らない、すつきりとした軽い味わい。こういった清らかなものを日本人は一番よしとします。そもそも日本人のおいしさは味覚に依存していません。

味覚よりむしろ触覚を重んじるので、日本語は食感のオノマトペが発達しています。シャキシャキもサクサクもコリコリも、全部違うことが日本人なら理解できますが、海外だったら crispy (英) とか croquant (仏) といった限られた言葉しかないでしょう。

一期一会とか、ものあわれとか、私たちが健康に、豊かに生きていくための秘密が日本文化にはちりばめられているから、すごいなあと思いますね。

料理することは、地球と自然を大事にすること

一汁一菜という暮らしのスタイルのよいところは、環境問題のように「みんなと一緒に声を上げよう」と力まなくても、自分が「いいね」と思つたら、自分一人ですることです。一人一人が地球と向き合うことのできるので、一人の小さな行いが、大きな地球につながるのです。

どんな食材を使おうか考えるとき、人はすでに台所の外に飛び出して、社会や大自然を思っています。食材に触れて料理すると、意識せずとも直接的に自然とつながっているのです。

味噌や漬物が入ったカメの中には微生物が共存する生態系が生まれて、大自然が存在しています。かたや、私たちの体内には人間の作る40兆個の細胞よりはるかに多い、百兆もの腸内細菌が存在していて、人間は膨大な数の微生物と共生しています。どこからどこまでが人間か、どこから別の微生物なのか、もう区別がつかないくらい、人間の体の中に豊かな自然があるので

す。人間の内なる自然と大自然が共鳴する瞬間、その時にこそ人間が「ああ美しい」と感じるのです。

自分は自然の一部であることを認識すると、地球は自分自身であることに気がきます。悪いやつも嫌いなやつも、実はみんな自分の中にいる。この世は何を見たって自分なんです。親鸞が、善人も悪人も分け隔てなくみんな救われるとうたった、悪人正機です。

自然とともにある日本の文化というのは実によくできています。この日本の文化と、西洋の科学文明との習合の中に、未来への希望があるんじゃないでしょうか。

『一汁一菜でよいという提案』は、中学や大学の入試問題に数多く引用されています。この本を未来へのヒントとして、若い人たちが教科書がわりに使ってくれたら、これほど嬉しいことはありません。

まずは今夜の味噌汁から作ってみよう

根本的な生きる力や魂の力、いわゆる非認知能力を育てるには、「料理して食べる」という暮らしを基本として、いかに人としての土台を築き上げるかにかかっています。それは子ども時代の遊びや、生まれてから二十歳くらいまでの食生活を中心にした暮らしの中で培われるものです。ゆるぎない土台を作り上げたら、その上に学問でも何でも、新しい知識や経験を載せるといい。

地球環境のような大きな問題に対して、私たちがまずできることは「よき食事をすること」です。一汁一菜であれば、小学3・4年生にもなればできます。

今、ご飯がない家庭もたくさんあるようですが、料理して食べるという関係の中に、新しい家族が生まれればよいと考えています。



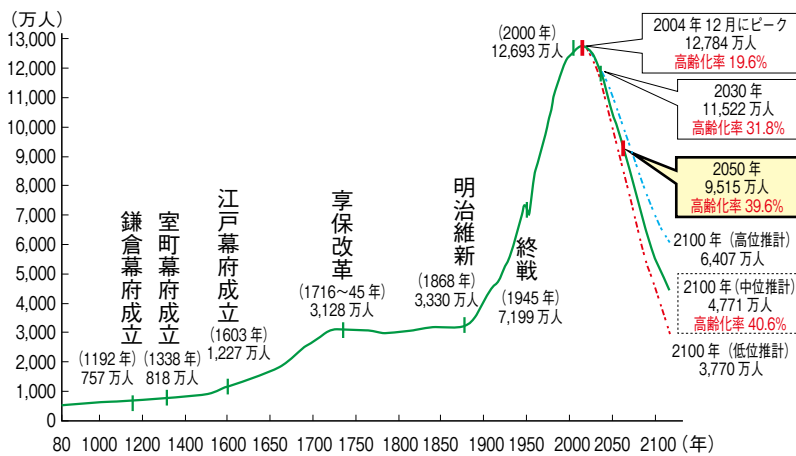
ICTの感覚と見方・ 考え方が働く子どもたち の育成を目ざして

子どもたちが現役世代を迎えるときに、どんな力が必要なのか

日本はこれから人口が減る時代と言われている。2030年には1億1000万人、2050年には9500万人、高齢化率は39.6%に達するという予測がされている。2050年はちょうど今の小学生が30代後半から40代前半の年齢となり、社会を引っ張っていく立場になる。われわれ大人が2050年をいかに想像し、大変厳しい時代であることを認識できるか。このことが、GIGAスクール構想を進めていく上で、極めて重要な考え方になる。

子どもたちがICTを使いこなす、デジタル感覚を身につけ、社会の問題や課題をデジタルで解決しようという見方・考え方が働く状態にしておかなければならない。2050年に仕事をする子どもたちが、この見方・考え方が働かなかったとしたら、社会をどう維持し、発展させていこうか、おそらく答えは見つからないままになるだろう。

例えば年金問題がある。1990年代までは大人数で一人の高齢者を支えていたが、現在では、一人の高齢者を支えるのは一人から二人とも言われている。また、人口が減ることになる。今までは、人を雇えばよかった時代だったが、



(出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成



信州大学教育学部 助教
佐藤 和紀

2050年にはそもそも雇う人がいなくなる。だから、人がしていた仕事を、人に代わって、コンピュータにやってもらわなければならない。このようなたき事ははかどらない。このようなたきさんの問題が、社会全体で起きる時代に、今の子どもたちが生きていくことになる。温暖化などの地球規模の問題も、もはやコンピュータなくしては解決することは不可能だろう。

こうした問題を解決していくためには、小学校段階から体験的にコンピュータを使って学習をしたり、生活を豊かにしたりするという経験が必要になってくる。小学校段階から、プログラミング教育を実施することについても、コンピュータには何ができて何ができないか、人が優れているものは何か、そのことを体験的に身につけていく必要がある。この感覚は、幼い頃から身につけていかなければならない感覚である。

ただし、現段階で子どもたちのデジタル感覚や見方・考え方は働かない状況である。例えば2015年に文部科学省が行った情報活用能力

調査では、子どもたちのタイピングの速さが極めて遅いことがわかっていて、2018年に行われたOECDのPIISA調査でも子どもたちは学習にICTをほとんど使っていないことがわかっていて、かつて、リテラシー（読み書き計算）が重要視されたように、デジタルやメディアのリテラシーは、現在の社会活動、経済活動において必要不可欠である。

大変厳しい状況においても、いまだにICTを活用することに否定的だったり懐疑的だったりする人がいる。これまでの直接体験、教員経験に依存しすぎることで、子どもたちの将来が危ういものになっていることに気づいていかなければならない。

ICTで学びや生活を豊にする

学校で研修や助言をしたり、大学で授業をしていたりすると、よく感想に書かれることがある。それは「ICTを活用することによって、子どもたちが体験する時間が減るのではないか、奪われるのではないか」というものである。

一見、今までの授業の中に

ICTが入ってくると、取り組まなければならぬことが増えるように見え、そのように思われるかもしれない。しかし実際、われわれは生活をよりよくするためにICTを活用することがほとんどである。例えば、旅行に行く際、旅行雑誌やインターネットで、旅行先のことをよく調べ、スケジュールを立て、宿泊先を予約し、そして現地に向かうことがほとんどである。一方、ほぼ調べないで旅行に行ったら、何がどこころなのか、どの順番で観光地を回れば効率的に移動できるのか、こういうことがわからず、非効率でポイントもわからないままただ時間が過ぎ去っていくことだろう。この場合、ICTを駆使して、事前に調べ、リアルタイムで情報を収集し、観光をしたほうが、豊かな旅行をすることができる。このように私たちはICTを使ってメディアからの情報を得て生活をよりよくしている。学校の授業場面に於いても、子どもたちが体験的に学ぶ上で、その体験をより豊かにすることができるとツールがICTである。

昨日、ある小学校で1年生の生活科の授業を参観した。子どもた

ちはクラウド上に、拾ってきたどんぐりで作ったおもちゃの写真を共有し、タイピングをして紹介していた。その紹介を、クラスの子どもたちが見て、工夫をしているところを褒めたり、自分のおもちゃに取り入れたり工夫を見つけたりしていた。その後、友達のおもちゃから学べたことを活かし、自分の作品に一工夫を入れる活動に取り組んだ。

この授業のあと、授業を実施したベテラン教師に「今日の情報端末の活用で、子どもたちの体験はより豊かになったと思いますか」「情報端末を活用することで、体験は少なくなると思いますか」とお聞きした。先生は「自分の作品を見せること、友達のおさを見つけること、それを自分の作品に活かすことができていることが、子どもたちの作品や言葉からよくわかりました」「体験は減っていませんし、豊かな学習活動になったと思います」と答えたことが印象的だった。

ICTは一見、子どもたちの体験を奪っているかのように見えるが、私たちの生活場

面を考えてみれば、子どもたちの生活はより豊かになっていくはずである。これまでの体験にとらわれず、冷静になって、時代を捉え、危機感をもって、ICTの活用が重要なものであるということを捉えて取り組んでいきたい。



学びを止めない 遠隔・オンライン教育 の力

「いつもと変わらない」 オンライン学習

「オンライン学習はどう？」と児童に聞くと、「いつもの授業とあまり変わらないです。」と返ってきた。新型コロナウイルス感染症による臨時休校で、家庭にいる児童と教師をつなぐオンライン学習を行っている時のことである。

文科科学省は、疫病や地震等の災害が発生した際登校できない場合も学びを止めないために、遠隔・オンライン教育を取り入れた家庭学習（以下、オンライン学習）が有効であるとしている。自宅にいながらも、普段の授業に近いいつも通りの学びができることは、児童生徒や保護者、教師にとって、大きな安心につながる

るだろう。

いつもと変わらないオンライン学習を支えたものは、クラウドを活用した学びだった。まず、Web会議システム（Zoom等）を使い児童と教師がつながる。これは教室に集まる感覚に近い。そして、各教科等の学習は Google Workspace for Education のツールを「文房具」的に使った。オンライン学習で考えや成果物をノートに書くと、教師は各自が書いたものをリアルタイムで見ることができない。しかし、Google スライドなどクラウド型ツールに書けば、教師はもとより児童同士も、誰がどんな学習をしているのかがわかる。教師は共有されたスライドをもとに学習状況を把握し、必要に応じて Web 会議システム上で、あるいはコメント機能などを用いてア

ドバイスする。児童は悩んだらテキストで相談したり、友達の商品を参考にしたりする（写真1）。いずれもクラウドによって可能なことであり、児童はまるで教室にいるかのように、教師や友達と協働しながら学習を進めることができる。ところが、だから「いつも」の授業とあまり変わらない「の」のだらう。



むつみ 栃木県壬生町立 睦 小学校 教諭
稲木 健太郎

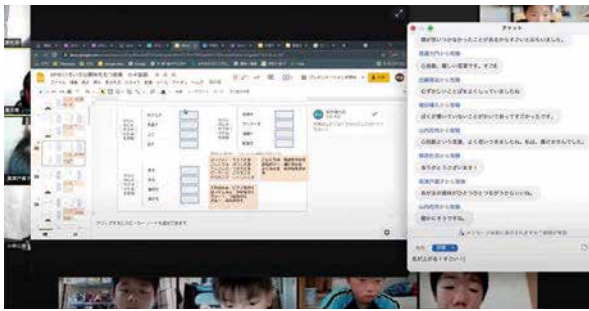


写真1：クラウドを活用して、教室にいるかのように学ぶ様子



写真2：休み時間に友達と端末を使う様子
た経験が、いざというときも学びを止めずに協働的に学び合える児童を育てることがつながる。

「普段づかい」がつながる

こうした学習が「いつもと変わらない」ということは、教室での普段の授業でもクラウドが基盤となっている。臨時休校になってから、あるいはなることがわかってから、急いで端末を使い始めて行ったわけではない。普段の授業で文房具として端末を使う。クラウドでどんなことができるかを、教師も児童も体験的に理解する。そうした段階が必要である。さらに、休み時間や家庭などで、授業以外の場でも端末に触れることで、操作に慣れたり使い方を覚えたりすることも大切である（写真2）。教師が指示したときにだけ使うようだと、いつも使う「文房具」にはならない。ノートや鉛筆、辞書などを休み時間や自主学習で使っているように、端末もまた、児童が文房具として普段づかいすることが大切である。そうし

中学校における1人1台端末の積極的な活用を目指した取組

本校ではChromebookが全校生徒に配付され、9か月が経とうとしている。各教科での実践や校務での活用、委員会や部活動での活用等が進みつつある。学校によっては先の稲木学級のように、いつでも子どもが選択して活用する段階まで進んでいるところがある一方、ようやく整備が整い、活用が始まった学校も多い。今回、本校での活用を振り返りながら、事例として2つ紹介する。

端末を授業ですぐに活用できる環境作り

端末の活用がスムーズに行くためには、いつでも子どもの手元に取り、使いたい時にすぐに使える環境を作る必要がある。しかし、子どもが勝手に学習に関係のないことをし

たり、不適切な使い方をして人間関係にトラブルが起きたりしないかなど、不安を感じる教師は多い。

そこで、本校では図のような使い方を示した用紙を作成、配付した。これは、札幌の小学校の先生とSNSを通じて情報共有し、作成した心得である。ここには、「朝学活が始まるまでに、Googleフォームで作成されたWeb健康観察を入力し、終わった後引き出しにしまう」といった具体的な行動を示している。

ところが、慣れてきた頃にルールを破る生徒が出てきた。そこで、こ



れは生徒と教師が話し合い、活用を見直すよい機会と捉え、生徒会を中心として心得の見直しと再発防止のための意見交換を行った。生徒会から出た意見をまとめ、全校生徒に提示した。その後はルールを守りながら順調に活用が進んでいる。

端末を使ってデジタルのメリットを活用した授業

今年4月、コロナ禍で3年生の修学旅行の行き先が、関西方面から県内へ変更となった。その頃、生徒は京都のことを調べ始めていたため、この学びを無駄にしたいくないと考え、新潟にいながら京都を体験するバーチャル修学旅行を考えた。ChromebookからGoogle Earthにアクセスし、360度画像を活用して、



新潟県三条市立大島中学校 教諭 山崎 寛山



京都一日研修プランを作成する授業である。生徒は個人で京都一日研修ルートを考え、Google Earthの「プロジェクト」モードを活用し、リアルな

360度画像を見ながら、行程を紹介するプレゼンを作成した。その後、グループ内でプランを見せながら発表会を行った。「バーチャルだったが、調べながら楽しめた。また、実際に自分でも行ってみたいと思った」という生徒の感想から、1人1台端末が手元にあることで、教室にいながらにしてリアルな体験につなげることができた。この活動後、JTB社による「バーチャル修学旅行360」プログラムに参加し、VR技術を用いた修学旅行を行い、学年全体で旅行気分を味わいながら学びを深めることができた。

1人1台端末を活用することで、生徒が主体的に学習に臨んだり、教師が生徒の資質・能力を最大限に発揮する取組が増えたりすることを願いながら、今後も活用の工夫を図っていききたい。

【学校支援活動】

★通学合宿

平成17年度から始めている3泊4日の通学合宿。3区の公民館を宿泊場所として、地域ぐるみで宿泊体験を見守っています。地域と学校の連携・協働活動として、地域の教育力も高まっていき、大きな成果をあげています。

★きらめき学習

町内の35か所あるすべての分館で実施する「きらめき学習」は、町の「ひと、もの、こと」を生かした地域学習に取り組み、地域と子どもたちのつながりを深めることに重要な役割を果たしています。

★読書リーダー養成講座

町の図書館職員を活用して小中学生の読書リーダーを育成する講座を開催し、講座修了後、参加者に修了証を渡しています。受講した読書リーダーは、それぞれの学校の図書委員等として、読書活動をけん引しています。その他、町の図書館の蔵書を活用した授業、読み聞かせ等の取り組みが認められ、図書館は令和2年文部科学大臣賞を受賞しました。



●きらめき学習



★その他

隔週の土曜日に区の公民館で、昔遊びや地域の文化等を学ぶ「土曜ネット活動」、小中学生が自分の考えや意見を広く町民に発表する「小中学生意見発表会」、親子と一緒に学ぶ「教育講演会」、小中9か年を見通したキャリア教育の一環として、地域の著名な方から夢や職業に関する話を聞く「持とう私の夢講演会」、国指定史跡文化財の石人山古墳、弘化谷古墳等を活用した「地域学習」等があります。

●小中学生意見発表会

【学校支援活動】

★広川中学校放課後「学び道場」

広川中学校において、学力向上を目的として、火・金曜日の放課後に各1時間、基礎・基本の習得や発展的内容を学習する「学び道場」は、地域学校協働活動推進員を核に実施しています。今年度、この「学び道場」には、総勢18名の地域住民、近隣の大学生が学習支援スタッフとして、58名の生徒の学習支援に当たっています。

★夏休み学力向上講座

夏季休業中、小学校5・6年生、中学校1年生を対象として、各学校の課題に応じて5日間の学力向上講座を実施しています。この講座には、地域住民のみならず、高校生や大学生もボランティアとして指導に当たっています。

【体験活動】

★乳幼児触れ合い体験学習

広川中学校では、「乳幼児触れ合い体験学習、命の授業」を実施しています。この学習は、学校と保護者、地域、行政が役割分担をし、それぞれができることを出し合い、連携して行っているものです。学習を終え、指導の中心となった主幹教諭は、「生徒たちは、体験活動やいろいろな方から、話を聞くことで、自分自身の家族・家庭を見つめ、将来の自分の生活を考え、工夫しようとする力がついてきているようです。」と語っています。

★その他

親子で広川町の企業を見学する「親子で工業団地見学会」や、^{こうらたいしゃ}高良大社（1600年以上の歴史をもつ久留米市の神社）と広川町のつながりを学びながら19時から翌日未明まで歩く「親子ふれあいナイトハイキング」、大自然の中で実施する「子ども会リーダー研修」などがあります。



●放課後学び道場

きょういく 見聞録

福岡県八女郡広川町では、教師やSSW※などの専門スタッフだけではなく、地域住民や保護者なども「チーム学校」の一員として協力し、子どもを育てる「協育」を進めています。特に、「広川町学校運営協議会」や「広川町地域学校協働本部」は、「学校を核とした地域づくり」を旨とした「地方創生」の一環として、位置づけられています。

※SSW：スクールソーシャルワーカー

地域とともにある学校づくりの推進

広川町では、地域と学校と行政が一つになって、子ども一人一人に「生きる力」を育むために、「地域とともにある学校づくり」を推進しています。その推進の両輪となるのが、広川町学校運営協議会と広川町地域学校協働本部です。

特に広川町の地域学校協働本部の各活動は、「ひと・もの・こと」を生かして地域全体で次代を担う子どもたちを育成するために、地域・保護者と学校、行政が連携・協働している取り組みです。平成元年度にはこの協働本部の前身である教育力向上本部協議会が、また、令和2年度には町の図書館および職員を活用した事業が、さらに、本年度は町の人材を活用した上広川小学校が学校図書館コンクールで、それぞれ文部科学大臣賞を受賞しました。

これからも地域・保護者、学校、行政が連携・協働して、地域とともにある学校づくりを推進します。

広川町教育委員会 教育長 富山 拓二郎

広川町学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

広川町は人口2万人弱の小さな町です。そのため、これまでも町立の3小学校と1中学校は、さまざまな取組を連携して行ってきました。平成30年3月に地教行法の改定により、複数校で学校運営協議会を設置することが可能になったため、それまでの「広川町版コミュニティ・スクール」から「広川町コミュニティ・スクール」と改名し、地域と学校、行政が連携・協働して地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。年間4回の定例協議会では、学校運営協議会委員と学校、教育委員会が熟議を重ね、学校運営の改善を図っています。協議会の主な内容は右のとおりです。

- 第1回（4月下旬）
 - ・委員の任命及び任命書交付 ・趣旨の説明
 - ・会長、副会長の決定
- 第2回（5月中旬）
 - ・各学校の運営方針及び自己評価の説明
 - ・意見交流及び運営方針の承認
- 第3回（11月初旬）
 - ・各学校を訪問しての教育活動視察
- 第4回（2月中旬）
 - ・学校の自己評価の報告及び意見交換



●学校視察



●会議の様子

※2月最終日までに、委員は各学校の自己評価を評価します。記入済の評価表は教育委員会事務局を経て、学校に渡ります。各学校は、3月上旬までに「学校評価報告書」を教育委員会事務局に提出するとともに、HP等により公表します。

広川町地域学校協働本部

広川町では、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力向上を図り、社会総がかりでの教育の実現を目指すことを目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地方創生の実現を図る諸活動を実施しています。

子どもたちの学びに多くの町民が関わる「町民総がかりの共同体制を展開する活動」を総括するのが、広川町地域学校協働本部です。各協働活動は次の3つに分類されます。その1つは「学校支援活動」で、専門スタッフ、地域住民や保護者が「チーム広川」の一員として子どもを育てる教育をしています。2つめは「学習支援活動」で、放課後、土曜日・休日に地域住民や高校生・大学生ボランティアが学習活動を支援しています。3つめは「体験活動」で、地域の行事や公民館分館等を活用した体験活動を実施しています。これら広川町の取組内容が他の地域学校協働活動の模範であると認められ、令和元年度に文部科学大臣賞を受賞しました。



●第一回バスバ大会（小中学生対象）開会式

（公園が）つなげる若者たちと地域の未来） 名古屋市南区での活動

大江・明豊中学校

ブロックPTA
パトロール隊

隊長 林 賢二

愛知県名古屋市南区にある道徳公園では以前、中学生、高校生を中心とした若者たちによるトラブルが続いていた。近隣2つの中学校、4つの小学校のPTA会長・副会長・会長OBらが集まり「大江・明豊中学校ブロックPTAパトロール隊」（以下、PTAパトロール隊）を結成。公園での問題行動の沈静化、バスケットボールコートを活用した若者たちの居場所づくりと、学区を越えたPTA活動の連携への取組を紹介する。

トラブル続きの公園

2015年頃、深夜になると、若者たちが公園に集まり、バイクによる暴走、器物破壊、放火等の事件を頻繁に起こしていた。警察が介入するも治まらない。そこで、近隣公民会、教員、PTAによる連日のパトロール活動、若者への直接の働きかけが始まる。いったん沈静化するも、暫くするとまた問題行動の情報が入るようになる。

2016年夏、PTAパトロール隊として夜間のパトロール活動を開始。当初は、早く帰るよう声をかけることから始める。不審がる若者もいたが、何度も顔を合わせるうちに一つ二つと本音を聴けるように。公園に集まる理由が「居場所づくり」「仲間探し」であることを理解する。

「バスバ」の誕生

2017年春、若者たちの「居場所づくり」のため、地域の協力を得て、公園内にあつたバスケットゴールを活用し、フルコート2面に整備。また、命名権売却による協賛金で運営費を捻出。モルテンバスケットボールパーク、通称「バスバ」が誕生した。

そのコートの管理に手を挙げたのがこれまで深夜に集まっていた若者たちだ。「居場所」を得た彼らが清掃活動や適正利用を呼びかけた。当初はルールを守らない利用者もいたが、徐々に適正利用は減っていく。現在では、深夜の時間外利用者は皆無。同時に、若者たちの徘徊も減っていった。



●大人による大会イベントの様子



●パトロール隊



●若者たちによる使用後の清掃活動



●2023年3月リニューアルオープン

い、意見を聴いたりしながら、若者の「居場所」を認めることだと感じている。学区を越えたPTAのつながりや、同じ世代の子をもつ親子の情報交換もできるようになった。全国各地でも地域における若者たちとの連携や、また、PTA活動の課題があるのではないだろうか。この活動が若者たちと地域の未来をつなげる一助となれば幸いである。

現在と「これから」

「バスパ」では、PTAパトロール隊と管理を担う若者たちが中心となり、年に1回小中学生を対象とした大会を開催している。また、来年度末には全面改修され、全国に類を見ないバスケットボールパーク（左写真参照）に生まれ変わる予定である。

現在も毎週金曜日にパトロール活動が続いている。この活動は、迷惑行為を行う若者たちを「排除」することが目的ではない。彼ら一人一人に寄り添

埼玉

教育漫才で楽しみながら心を育てる

越谷市立新方小学校 校長 田畑 栄一

コロナ禍2年めの今年、教育目標を「自律・相互承認・表現」に変更。不透明な時代をたくましく生きる資質・能力を育成したいという願いからだ。

その中核が総合的な学習の時間。3年生以上の異年齢集団で体育館をベース基地にSDGsをテーマに取り組んでいる。各自が17項目から探究したい内容を選択。個人や協働でタブレットや図書で探究し、地域の達人から学び、地球への関心を高めている。今後はプロジェクトを立ち上げ、自分事として捉え、学習内容を発表予定であるが、課題は堂々と伝えられるか。

そこで1学期は表現力の育成に取り組んだ。それが教育漫才。教育漫才とはマイナス言葉（死ぬ、消える等）や暴力（叩く、蹴る等）を使わないで、温かいコミュニケーションで観客を安心して笑わせ、いじめはつまらないという心を育てる対話文化である。

一回目は学級でくじを引き、コンビ・トリオ（以後コンビ）を組んだ。流れは①自己紹介・ネタ作り②演技練習 ③兄弟ペアでの学び合い ④学級教育漫才大会 ⑤学級代表による教育漫才大会 ⑥笑いのとれたコンビの分析。この過程で表現力を鍛え、同時にくじの意図を伝えて互いに認め合う心を育んだ。

二回目は異年齢コンビで教育漫才に挑戦。例えば、3年と6年の凸凹コンビを始め、ユニークなコンビが誕生。異年齢コンビは同質集団にはない上級生の自覚醸成や下級生からの憧れが和やかな雰囲気醸し出す。一回目同様に①～③を経て、くじで割り振られた異年齢チーム毎に予選を経て投票し、チーム代表12コンビが舞台へ登場。下級生がツッコミ、上級生がボケるといった日常では見られない演技等で観客から拍手と温かい笑いを引き出した。

教育漫才は表現力、人間関係形成能力を育て、いじめの元凶である「マイナス言葉と暴力」を封印し、安心して表現し合える土壌を耕す。すると児童一人一人が安心して自律に向かって歩み出す。



QRコードから学校ホームページをご覧ください。



メロンパン（コンビ名）が漫才を披露

全国各地のさまざまな取組を紹介します。

北海道

湧別町全体での学力向上の取組

湧別町教育委員会 指導室長 佐藤 大

湧別町は人口約8,400人の農業、水産業を中心とした第一次産業の町です。町内には、小学校5校（265名）、中学校2校（156名）、義務教育学校1校（35名）が設置されており、8校のうち4校が複式校です。

湧別町全体の学力向上を目指すため、令和2年度より4年度までの3か年において湧別町独自の取組として、学力向上と学校の組織力向上のための施策として湧別町型学校力向上事業を実践しています。「主体的・対話的で深い学び」の充実した授業形態として町内での統一した授業づくりのポイントとして（1）児童生徒のアウトプットのある授業（2）協働的な学びの充実した授業、の2点を設定しました。また、校内研修のポイントとして「子どもたちに着目した研修」としました。湧別小学校を実践校として公開授業や校内研修への参加を通して町内すべての先生方の指導力向上を図り、町内全体の学力向上を目指しています。この事業を通して湧別町が目ざす授業のモデルを湧別小学校が実践しています。公開研究会においては、大学と連携し、質の高い教育が行うことができるよう大学の先生を招聘し指導助言をいただいています。

この取組の成果として1年で全国学力・学習状況調査等において大きな成果をあげることができました。今後は、GIGAスクール構想によるタブレット端末（iPad）、デジタル教科書、教師用デジタル指導書等を有効活用し、子どもたちどうしが学び合いながら、学ぶことの楽しさを授業を通じて子どもたちに伝えていけるよう取り組んでいきたいと考えています。また、湧別町では、町内の学校を三つの義務教育学校へと再編しようとしています。小中の連携を深め、9年間の学びが連続するよう子どもたちの発達段階に応じた学びに取り組んでいきます。



湧別町内合同研修会の風景

徳島

持続可能な社会に向けて 地域社会との連携

上板町立高志小学校 校長 中川 ひとし 齊史

大人でも難しいエシカル消費の概念は子どもたちにとってもなお、難しい。一言で言い表せないところがあるが、それに関する活動をしっかり体験させることで、児童の心に変化をもたせることにつながる。

本校のある地域は、一次産業に携わる方も多く、野菜農家、畜産農家などが大規模に事業を展開している地域である。近年の6次産業化も相まって、農畜産物の差別化を意識した生産も増えてきている。校区にそのような“ネタ”が多く広がっている。

2018年からの活動で着目したのは、食品ロスの問題。3年生が校区探検で広大なニンジン畑の前を通ったとき、収穫されず山積みになっているニンジンを発見する。そして、規格外野菜という言葉を知ることとなる。子どもなりに「もったいない」と感じ、自分たちの食生活に関係することであると認識し、それらを活かすにはどうしたらいいのかを考えはじめた。

規格外であっても、品質に問題はない。それらを活かすために、給食センターとの連携がはじまった。地産地消のよさ、食品ロスを意識した買い物行動などだけでなく、結果的に食べ残さない給食献立の開発や、調理時の残渣（野菜くず）の減少など、多くの改善につながり、町全体での取組となった。

3年がたった今でも、給食センターの協力体制は継続され、学校からのさまざまな提案を柔軟に受け入れてくれるだけでなく、食育指導のために頻りに町内の学校に出向いてくれ、生活・総合学習等の授業支援を積極的に行ってくれている。

人事が頻りに変化する公立校において、これらの活動を継続するには、学校カリキュラムに位置づけ、各担当が学年はじめにカリキュラムマネジメントを行うことが重要となってくる。まさに、地域に根ざした活動を、“持続可能な状態”にすることが今一番必要なことかも知れない。



QRコードから学校ホームページをご覧ください。



給食センターの栄養教諭と栄養士に対して、規格外野菜を使ったメニューを提案する4年生

千葉

地域とともに歩む

千葉市立花園中学校 校長 保田 裕介

本校は1947年に千葉市立第七中学校として開校し、2017年には70周年を迎えました。現在の花園中学校に改称するのは1951年4月ですが、その年の3月30日に植物学者の大賀一郎博士と本校生徒によって古代ハスの種子が見つかります。「大賀ハス」と名付けられたこのハスは2000年の眠りから覚め、その後、見事に開花しました。そうした縁から、ここ花園地区では、各学校や各所に蓮池があり、夏になると大輪の花を咲かせています。

本校では、ハスの育成と観察、蓮池の管理などを「大賀ハス育成委員会」が担当しています。具体的な活動内容は、藻をとったり草むしりをしたりして蓮池を管理するとともに、ハスの栽培記録を作成し記録として残すことです。この委員会は、委員長・副委員長こそ生徒会本部役員や専門委員長が兼任しますが、活動の中心となる委員は全校から募集したボランティアで構成されています。

大賀ハス育成委員会の活動は、地域にある「大賀ハスのふるさとの会」の皆様と連携し、多くの助力をいただいています。こうした地域の方々と連携しボランティア活動を行うことで、地域を大切にしていける気持ちや地域に対する誇りを養うことを目指しています。

ほかにも、地域の方が作成された「ねぶた」に、地域の方のご指導を仰ぎながら、毎年美術部が絵付けをしています。こちらは、作品が地域のJR新検見川駅に展示され、地域の皆さんにも親しまれています。

1951年に大賀博士と本校生徒により、古代ハスの種子が発見されて70年。花園中学校の名にふさわしく、今年もたくさんの大輪のハスの花が開花しました。その花に負けじと、本校の生徒は地域の方々と連携し、ともに歩みを進めながら、学ぶ姿勢を開花させ、成長する姿を結実させています。これからも地域とともに歩む学校として、歴史を重ねていきたいと思っています。



来年の開花のために、11月・12月にも蓮池の手入れを行っています。

コロナ禍の中の環境や生活を見つめ、しっかりと受けとめ、「こうありたい」という主張や提言がよく表現されていました。それも言葉の上だけでなく、根拠や証拠が数字や映像で裏うちされ、「深い考察」の作品が多かったのが、今回の特徴でした。

評：審査委員長 児島邦宏

入賞作品発表

◎後援／環境省、日本環境教育学会、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

学校賞：千葉県 市川市立大柏小学校

はだの色は自分の宝

たなか とうこ
田中 董子 シンガポール日本人学校
クレメンティ校 6年

はだの色は自分の宝です。神様からもらった大切な色です。私は、ちがうはだの色で生まれればよかったと思う人を見ると、一回しかもらわないのにと、おちこみます。

地球に生まれてきたからこそ、私たちはちがう顔、ちがうはだがあってそれでよいのです。

今の世界で起きている問題、はだの色でその人が決めつけられてしまうことです。はだは、ただ外から見える自分です。はだの色はその人の「中身」「行動」「ふるまい」に関係ありません。

私の理想は、地球にいる一人一人が笑顔で暮らし、自分のはだの色は自分の宝だと知ってもらうことです。今は、人の中身を見て地球と平和に仲よくすることだと思えます。

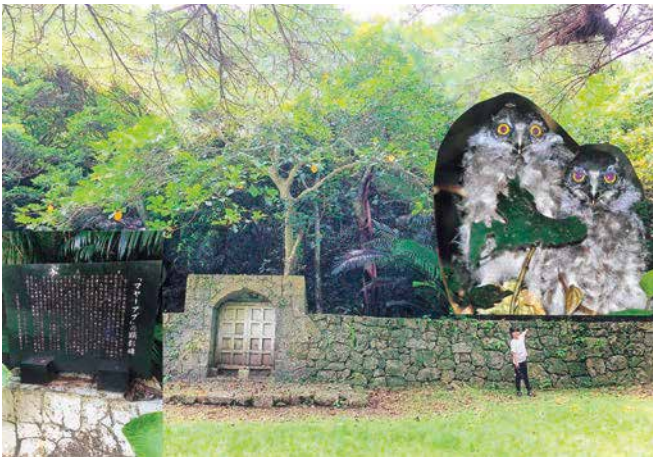
【評】「肌の色は自分の宝、大切な宝。」そこから、何より自分を大事にする心が生まれ、お互いの尊敬、信頼、平和が生まれてくる。

地球となかよし大賞



私が守りたい場所

なかも えみか
仲間 笑花 沖縄県 宜野湾市立
はごろも小学校 5年



※顕彰碑は拝所に隣接した場所にあります。

「フクロウのヒナがいるよ。」7月7日七夕の日の朝、おじさんから電話が来ました。私は急いで、ランドセルを背負っておにぎり片手に森川公園にかけつけました。

行ってみると、目の前の石の上にかわいいフクロウのヒナが2羽、立っていました。毛は、とてもふわふわしてそうでかわいかったです。

ここには拝所（うがんじゅ）があり、人があまり立ち入らないので、自然が守られてきました。戦争の時には拝所の奥のガマ（どうくつ）に身を隠して、たくさんの人も守ってくれたそうです。

私がフクロウのヒナを見ることができたのも、自然がずっと守られてきたからだと思います。だから、私がこの場所を守っていかないといけないと思いました。

【評】「開発」が進む中、拝所や鎮守の森は、昔からの「自然」がそのまま残された孤島になりました。あなたと同じ「保護」が大事です。

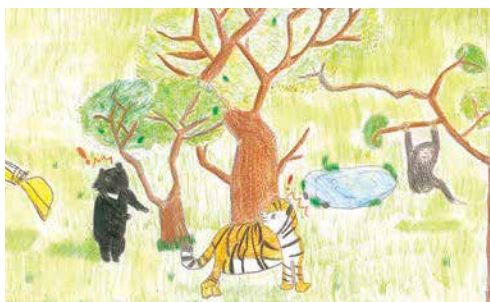
にんげんときょうりゅう

たえし 妙治 海外 上海日本人学校虹橋校 1年



ぼくは、ゆうえんちで、きょうりゅうとくさとかざんのにおいをかいだ。
きょうりゅうはもういきていませんけれど、ぼくはちきゅうできょうりゅう
とおなじくきをすることができてうれしいです。
むかしは、きょうりゅうがすんでいたちきゅうでした。いまは、ぼくがすん
でいるちきゅうです。
ちきゅうとなかよし、にんげんときょうりゅうのちきゅうを、そうじとごみ
をわけることでまもりつづけたいです。

【評】昔、きょうりゅうがすっていた空気を、今、私がすっている。その同じちきゅうを守るためのそうじ。その大きな心がけ、りっぱです。



動物となかよし

ふくしま 福島 由依 東京都 日野市立夢が丘小学校 3年

わたしはしょうらい、じゅういになりたいです。その理由は、ぜつめつきぐ
しゅをまもりたいからです。
今、世界には三万七千四百しゅ以上ぜつめつきぐしゅがいます。原因は、地
球温だん化、らんかく、生そく地のおせん、外来しゅの持ちこみなどがあります。
森林はかいもその一つです。森林がはかいされると、動物のしゅるいが少な
くなってしまいます。すると、全体のバランスが悪くなってしまいます。
だから、しょうらいじゅういになって、動物を助けたり、森を作ってあげたり
して、少しでも、動物を守りたいです。

【評】こんなに多くのぜつめつきぐしゅがいるとは、原因もまた多いですね。ぜひ、じゅういになって、動物たちの森を作ってください。

近所のおばあちゃん

さいとう 齋藤 由衣 東京都 板橋区立前野小学校 4年



お父さんと庭のお花のお世話をしていると、近所の人が話しかけてくれます。
家のカギがなくて中に入れなかった時に家の前で困っていたら「どうしたの?」と、近所のおばあさんが話しかけてくれ、おばあさんの家でおやつをごちそうになりながら、家族が帰ってくるまでの少しの時間、待たせてもらいました。
私には、おじいちゃんもおばあちゃんももういないので、本当のおばあちゃんができたみたいでうれしかったです。
コロナがおちついたら、また遊びに行きたいです。
お花のお世話をすることで、近所の人と仲よくなれてよかったです。これからも、お花のお世話を続けていきます。

【評】近所の人と仲よくなれて、おばあちゃんももたちになり、「近所」が広くなり楽しみですね。おばあちゃんも、きっと待っていますよ。

「いっしょに歩こう!」 目の不自由な人と平和な町を歩くために〜

ながさわ はると 永澤 晴翔 埼玉県 富士見市立水谷小学校 5年



【評】いっしょに歩いている「点字ブロック」について「おやっ」と聞か
かけ、よく調べました。二つの調べ方を追ったこともすばらしい。
はくは、田んぼを歩いているときに、魚字(魚字)ブロックがある
気になっていました。そこでどのような場所にもどのような工夫が
あるのか調べてみました。
大きく分けて二つの方法で調べました。これは実際に町に出る調査
と、ネットで調べた調査です。
① 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
② 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
③ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
④ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑤ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑥ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑦ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑧ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑨ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑩ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑪ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑫ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑬ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑭ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑮ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑯ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑰ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑱ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑲ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
⑳ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉑ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉒ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉓ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉔ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉕ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉖ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉗ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉘ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉙ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉚ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉛ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉜ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉝ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉞ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㉟ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊱ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊲ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊳ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊴ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊵ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊶ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊷ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊸ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊹ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊺ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊻ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊼ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊽ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊾ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査
㊿ 魚字ブロック(点字ブロック)の調査

入賞作品

ぼくとカブトムシ

いわき 岩脇 龍真 徳島県 藍住町立藍住西小学校 3年



この夏、ぼくの家のもとにカブトムシがとんできました。ぼくの家には近所のおじちゃんからもらったカブトムシもいます。地きゅうから緑がどんどんへっていますが、虫かか生きていく上でひつような緑を大切にしたいと思います。

ぼくのおじいちゃんお父さんも、むかし、かっていたことがあるカブトムシ。

黒くてツヤツヤしていてもカッコイイです。これ

からも、カブトムシがずっと生きのこっていけるような、かんきょううであってほしいと思います。

入賞作品

ぼくのかわいいチロル

みま 美間 はずみ 春澄 徳島県 藍住町立藍住西小学校 1年



ちろるは、あいごセンターからぼくのいえにきました。とってもこわがりだけど、かぞくとは、なかよくできるようになりました。

これからもずっといっしょにいます。

入賞作品

かんきょうを大切に

まつばら まつばら なつき 松原 菜月 東京都 日野市立夢が丘小学校 4年



私はかんきょうについているいる知りたかったので、インターネットで調べてみることにしました。

インターネットで調べたら、ビニールぶくろが手に引っかかっているウミガメ

の画ぞうが出てきました。とても悲しい気持ちになりました。

私たち人間のせいで生き物が大変な思いをしているのです。ゴミがふえると、川や海にすむ生き物がすみづらくなります。

なので私は、ゴミをふやさないために、むだな物を買わないようにしたいと思いました。

それと、マイバックの使用やゴミの分べつをしっかり行い、今すぐできることからせっきょ的に取り組んでいきます。

入賞作品

ありとおさんぽ

くろかわ ひなた 黒川 陽向 千葉県 市川市立大柏小学校 1年



ありといっしょのおおきさになって、おさんぽをしているところです。

たのしくおさんぽしてる。



◎審査委員(敬称略)

児島 邦宏 東京学芸大学名誉教授

角屋 重樹 日本体育大学教授

井上由美子 環境省 大臣官房総合政策課
環境教育推進室室長補佐

太刀川みなみ 日本環境教育学会理事
NPO 法人ビーグッドカフェ

藤森 克彦 全国小中学校環境教育研究会会長

東京都品川区立大井第一小学校長

大矢 伸一 毎日新聞社 教育事業室プロデューサー

伊東 千尋 教育出版 代表取締役社長

(順不同・敬称略)

入賞作品

ひみつの散歩道

ながい 永井 はるか 遙夏 東京都 日野市立夢が丘小学校 5年



私にはひみつの散歩道があります。そこには木がたくさん植えてあって、真夏でもすずしいです。

そこからは、町が見わたせます。けれど、町の中には木があまり植えられてい

ません。理由はすぐわかりました。家を作るために木を切ってしまったんです。

私は、このままでは私のひみつの散歩道も無くなってしまわないかと思いました。

だから私は、もう少し大きくなったら、植林体験をしようと思います。今やったら、何十年後かは、緑あふれるような町ができるといいです。

入賞作品

造った物・こわす人

ごほう 五寶 あき 晶 東京都 日野市立夢が丘小学校 5年



みなさんは、「作る」か、「こわす」。どちらが楽ですか？

ぼくは、間違いなく後者だと思います。例えば、パズルを一時間かけて「作った」なら、「こわす」のにはせい

ぜい5分しかかかりません。

これは、人類でも同じです。地球が四十六億年かけて「造った」ものを、人類は簡単にこわし続けています。それは、自然です。

こわれたものを直すとなると、それ相応の時間を要します。しかし、われわれ人類には、こわした自然を時間をかけてでも、元にもどす「ぎむ」があるのです。

入賞作品

縄ないしよてえ (魚沼弁 縄ないしようよ)

ほし 星 まうる 万潤 新潟県 三ツ星エコクラブ 6年 (魚沼市立湯之谷小学校)



私の環境保全活動の記事を読んだ市内のおばあちゃんが連らくをくれ、「一緒に縄ないをしないか？」とさそってくれました。

道のわきにはえている『あかそ』という植物をとって、かわかして一緒に縄ないをしました。

初めてでむずかしかったけど、声をかけてもらい、昔の話を聞きながら、草のにおいをかぎながら、シソジュース

を飲んだり、よい時間を過ごしました。

知らないおばあちゃんだったけど、今は身近なステキな先パイです。

入賞作品

高齢者も暮らしやすい町

おおの 大野 まりあ 真音愛 東京都 日野市立夢が丘小学校 6年



私には、おじいちゃんとおばあちゃんがいて、おじいちゃんは、家の階段の手すりを自分で作ったり、こわれたかさや鏡を直したり、おばあちゃんは、

太極拳のおどりがおどれるなど、二人とも元気です。

しかし、いくら元気でも、高齢者です。おじいちゃんは、もうすぐで、車の運転免許を返納するかもしれません。さらに、こしも少しだけまがりかけています。このままだと、気軽に買い物もできなくなるという人も多いと思います。

なので、階段に手すりをつけたり、スロープを作ったり、バスの本数を増やすなどの工夫をして、高齢者も暮らしやすい町にしていきたいと思います。



入賞作品は弊社ホームページからご覧いただけます

入賞作品

誰も得しない水の無駄!

みつ 三井 りく 稜久 東京都 台東区立柏葉中学校 2年



皆さんは、水の流しっぱなしをした経験はありませんか？ 僕は時々ありますが、常習犯の人はどれぐらいもったいないか学んでください！

自分の生活の中で水を多く使っている場所を考えたとき、浴室だと思ったので、シャワーの時間を調べた結果5分6秒の間、水を流していることがわかりました。約55リットルです。

自分でも思ったより使っていて、びっくりしました。皆さんも計ってみると意外と自分が水を使っているのがわかり、節約しようという気持ちになると思います。

世の中には、きれいな水を自由に使えない国のほうが多いです。一人一人の積み重ねが大事だと僕は思います。自分たちがすんでいる地球を大切に、守っていきましょう。



子どもと美術館 [連載第1回]

— 半世紀前アメリカの美術館で見た衝撃 —



けいみ
建築家 原田敬美

1969年（昭和44年）から70年の1年間、大学の交換留学生としてアメリカ、オハイオ州にある The College of Wooster で学ぶ機会をいただきました。私の専門は建築計画、留学先の大学はリベラルアーツ（一般教養）の大学で建築の専門課程はありません。そこで美術（Fine Arts）の授業を主に取りました。

授業の一環で、比較的近いクリーブランド美術館（クリーブランド市は当時全米で5位の人口規模）、フィラデルフィア美術館を訪問しました。また、春休み・夏休みを利用し、ニューヨーク市のグッゲンハイム美術館（フランク・ロイド・ライトの設計）、メトロポリタン美術館、ニューヨーク近代美術館、ホイットニー美術館（マルセル・ブロイヤー設計）、シカゴ美術館、ヒューストン近代美術館（新館はミース・ファン・デル・ローエ設計）など建築作品としても有名な美術館を訪問しました。その後現在に至るまで多くの美術館を訪問しました。

夜10時までの開館に驚き

1969年、クリーブランド美術館を訪問して驚きました。まず、曜日によっては夜10時まで開館しています。日本の美術館は、現在も多くの場合5時までです。

インターネットで最近の開館時間を調べました。クリーブランド美術館は水曜、金曜は夜9時まで開館。休館日は1月1日、7月4日（独立記念日）、感謝祭、12月25日の年4日。

ニューヨーク市のメトロポリタン美術館は金曜日9時まで開館。ヒューストン市の近代美術館は木曜日9時まで開館。しかも木曜日は入場無料。特に美術分野の学生にはさまざまな特権が与えられています。多くの美術館は写真撮影、スケッチが自由にできます。

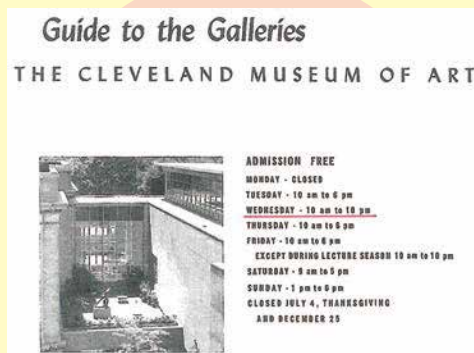
床に寝っ転がり 学芸員の話聞く小学生たち

1969年、クリーブランド美術館での小学生の鑑賞風景に驚きました。多くの児童が床に座り、一部の児童は寝そべて学芸員の話に聞き入っていました。堅苦しい学校教育という雰囲気ではなく、リラックスし絵画や彫刻を鑑賞していました。

最近のルーヴル美術館では子どものためのプログラムが用意されています。美術鑑賞の手助けにアニメで美術の学習教材が作成されています。子どもたちに少しでも美術に関心をもってもらうための努力がうかがえます。

欧米の美術館を訪問し感じることは、

日本の美術館は堅苦しく、閉鎖的です。日本の美術館も、子どもでも楽しめるよう運営に配慮すべきと思います。子どもの時から美術に関心をもたせる学習方法が必要です。美術は世界共通の言語です。子どもにも必須の学習内容です。



▲クリーブランド美術館パンフレット（一部）

原田敬美 (Harada Keimi)
建築家、工学博士、技術士（建設）、前東京都港区長。川口市文化芸術審議会会長。
1974年、早稲田大学大学院建設工学専攻修士課程修了。1980年、SEC計画事務所設立。
1983年から、港区の街づくり懇談会、都市計画審議会、住宅とマスタープラン策定、環境調査審議会委員などを委嘱。2005年、イタリヤ・コメンダットーレ叙勲。

学校文法を改める



元筑波大学学長
新潟産業大学名誉学長
北原 保雄

パソコンが出回り始めた頃、書写の先生の集まりで、文字を書く道具の変遷について、毛筆から鉛筆、万年筆、ボールペン、そしてパソコンと移り変わったことを話したことがあった。もともと書くことは、石や木を引っ掻くことから始まったと言われているが、パソコンの出現によって、それまでの文字を「書く」時代から、文字を「打つ」時代が変わったことが言いたかったのだ。これは、まさに画期的なことだった。最近では、「書き言葉」に対して「打ち言葉」という用語さえ出てきている。

パソコンの利用は書く（打つ）ためだけではない。文章を書くためだけにパソコンを利用する人は今やむしろ少数派だろう。パソコンには、年配者はついていけない、いろいろな使い方があつた。聞いたことのない専門用語がいろいろ出てくる。それを子どもたちはみな知っている。ICT（情報通信技術）は子どもたちにとっては常識だ。紙での伝達しかできない頭の古い老人には、現在の学校の教員は務まらない。

しかし、新しいことだけがよいわけではない。古くから教えられてきた教育内容にもよいことがたくさんある。それだけの価値があるからこそ残ってきたのだ。それを忘れてはならない。一方、長く教えられてきたものにも、誤りのあることがある。それは早く改めなければならない。

小中学校の国語教科書、そして高校の国語教科書までがまちがっているのだ。学校文法で教えられていることの問題点を、私は、ずいぶん以前から力説

しているのだが、学校の現場にはなかなか届かなかった。先生方は文節文法に慣れていて（おそらく文法は文節文法しかないと思っていて）、他の文法的な考え方を受け入れようとしなかつた。文部科学省も、学校現場の状況に配慮しているからか、文節文法を改めようとしなかつた。そして、教科書を編集する側も、今の文法が定着しているとしてそのままにしている。そういう状況下にあつて私自身も教科書の編集委員の一人でありながら、それに従わざるを得なかつた。

学校文法では、主語と述語を大事にする。その主語と述語がまず大問題なのだ。学校で教えられている連用修飾語も、補充分と修飾成分とに二分されなければならない。

これまでは教科書編集にあつた、文節文法中心の学校文法に我慢して従ってきたが、このままでよいのかという気持ちがだんだん強くなってきた。学校文法のすべてでなくてもよい。大事なところだけでもよい。まず、そういうところから取りあげようと思ったのだ。そういうことで、最近、『改めたい文法の非常識』（教育出版刊）という本を書いた。

詳しいことは著書に譲るが、間違っていることは一刻も早く改めなければならない。刊行されたら是非、読者諸氏のご意見をいただければ幸いである。



改めたい文法の非常識

—— 主語の解体と文の構造

北原保雄 著 発行：教育出版 四六判・上製・184頁 定価：1,980円（本体1,800円＋税）

「私がプリンが食べられます。」この文の「主語」は？

……主語と述語、文の構造、連用修飾語の問題を取り上げ、学校で教えられて多くの人たちが信じている文法の「非常識」について考える。

3・11伝承ロードの意義と取組

東北には数多くの震災遺構や伝承施設がありますが、これらは被害の実相がわかると同時に、具体的な行動に基づいて生きのびた人がいるという点で、大きな教訓を得ることができます。被災地には唯一無二の教訓が存在する、まさに「教訓の宝庫」といえます。

県をまたいで東北沿岸に点在するこれらの震災遺構や数々の津波石碑、映像や写真を展示している施設などを「震災伝承施設」として登録し、ネットワーキング化して、教訓を体系的に伝えることを「3・11伝承ロード」と名づけました。

かつて俳聖芭蕉が「奥の細道」によって東北の自然観を表現したように、「3・11伝承ロード」を訪れることでしか体感できない教訓や学びが必ずあるはずで

この道を震災伝承のプラットフォームとして、訪れる人が生きる知恵や教訓を学べるよう、さまざまな活動を行っています。防災研究や伝承施設の情報発信、学校・企業向けの啓発プログラムの提供、ツーリズム支援など、取組内容は多岐にわたります。



令和3年10月の時点で、「震災伝承施設」は289件登録されており、現在も増え続けています。登録にあたっては、駐車場の有無や、案内人が配置されているかなど、各施設の訪問のしやすさや理解のしやすさにより分類して登

録しています。「震災伝承施設」を効率的に回れるよう3・11伝承ロードマップを作成したり、カーナビで検索できるようにする取組も進行中です。

国内外の多くの方に被災地に来ていただき、震災の教訓を体系的に学ぶことで防災力の向上に貢献するとともに、地域交流の活性化も目指しています。

貴重な教訓を次世代に生かす

昨今、日本では大規模な自然災害が頻発しており、家族・職場・友人間できちんと教訓の伝承が行われていないと、悲劇が繰り返される恐れがあります。

一例として2018年の西日本豪雨災害が挙げられます。広島県で土砂災害が起き、レスキュー隊が行方不明者を捜索したのですが、現場には明治時代の水害碑が立っていました。111年前、まさに同じ場所で土砂災害があったことが記されていたのです。残念ながら、先人の教訓は伝わっていませんでした。石碑をいくつ建てても、伝わらなければ意味がないのです。

こうした反省のもとに、東日本大震災では伝承の柱として「震災伝承施設」と語り部活動を主眼に置いています。

学校への出前授業や、中高生が伝承施設を訪問して語り部のかたと交流するなど、防災意識向上のための活動が行われています。

当時のことは学校の先生より語り部に話してもらったのが、生徒さんたちは一番引き込まれるようです。「今までは津波の映像を見ても何とも思わなかったが、説明後は自分事として考えるようになった」など、前向きな感想もいただいています。

反面、被害の大きさや復興状況を知らない

地元の生徒が大勢いたのも事実です。当時6〜8歳程度だった今の高校生が、震災についてあまり知らないのは衝撃的でした。この取組は今後も継続しなければいけないとつくづく反省しました。

災害の裏にある自然の恩恵も伝えたい

大人もそうですが、子どもたちへの伝え方で気をつけたいのは、震災の恐ろしさだけでなく生々しく頭に残ってしまい、肝心の教訓が記憶に残らない点です。

災害規模が大きいと、どうしても「悲惨さ」に目が行きがちですが、一面的な伝え方にならないような配慮が必要かと考えています。

元々日本人は災害と長く共存してきた文化がありました。日本は災害が多い裏返しとして、四季があり、温泉があり、自然豊かで、山河から生み出される豊富な水があるということです。「恐ろしい」だけでなく、恵みの部分も伝えたいのです。

何をどこまで伝えるかはとても難しい問題です。震災の記憶を風化させず、課外授業や修学旅行など、学校教育の一環として定着させるために何が必要なのか、教育関係者と話し合いたいですね。3・11伝承ロードをぜひ教育現場で活用してほしいです。この取組が震災直後から献身的に救援の手を差し伸べていただいた国内外のかたがたへの返礼になることを願い、試行錯誤しながら取り組んでいます。

▼QRコードから
詳細な活動内容
をご覧ください
ます。



Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆巻頭インタビュー、ヤマザキマリさんの言葉には、強さと説得力があり、楽しく読んだ。非認知能力の育成（体得）の大切さが体験から語られており、広く周知されたい警句であると思った。（千葉県 H.M）
- ◆ICT支援員の充実喫緊の課題です。タブレット導入で現場ではトライ＆エラーが繰り返されていますが、トラブルが起きた時、「やっぱり紙の方がいい」と先生が諦めてしまわないが危惧します。4校に一人ではなく、各校に一人はICT支援員が配置されないと、ICT活用の勢いが鈍化してしまいます。（愛知県 T.S）
- ◆北原先生の「Front Runner」は、GIGAスクール構想に対するご自身のためらいが本音として感じられ、共感いたしました。（岩手県 H.T）



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていくとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

教育出版は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています